

自分らしいペースで、 この先も長く“ものづくり”を楽しんでいきます！

がま口工房 ぱこん pac-con 鈴木 ゆかりさん

夫の定年退職を機に自身の時間の過ごし方とじっくり向き合ったところ、自宅にてハンドメイドの工房を立ち上げることに。カラフルでオシャレな生地を使い、丁寧な縫製で素敵な商品をつくり出している。片手が空く斜め掛けタイプのバッグを基本に、様々な用途に合わせて工夫を凝らしている。



起業までのいきさつ

前職で介護の仕事をしていた時に、斜め掛けできて邪魔にならない小さなバッグがほしいと思いました。世の中にピッタリなものがなかったので、自分で作ったのが作品第1号です。初めは趣味としてポチポチ取り組んでいましたが、その後友人のハンドメイドイベントに出店したのを機にクチコミで作って欲しいという人が増えてきました。ちょうど夫の定年退職や不動産の相続など人生の節目を迎えるタイミングで、自分の時間、自分の居場所の確保や節税の必要性に気づき、仕事として本格的に取り組もうと決意しました。



起業する上で大変だったこと

自宅の2階の一部屋を工房としました。性分として家に誰かいるとついつい世話を焼いてしまうということがあり、なかなか制作に集中できないということが分かりました。また結構部品が細かくて作業量が多く、一つ完成させるのに意外と時間がかかるということも分かりました。スタートしてすぐに、ビジネスにすることの大変さと責任を感じました。頼まれて作ってあげている時は自分のペースで制作できましたが、イベントなどに向けて一定の量の商品をそろえなければならないという状況に直面した時に、自分をコントロールすることの難しさを知りました。



起業してよかったこと

女性起業講座を受講し、チャレンジマルシェに出店しました。当日は精一杯で実感はなかったのですが、周りから評判がよかったと聞き手ごたえを感じました。2回目のチャレンジマルシェで購入してもらったのを機にスカウトされて、静岡駅ビルのパルシェに期間限定で商品を出すことになりました。お客様と直に接して販売することで、様々な情報を見聞きし刺激を受けました。がま口に興味がある人の多さを知り、意外なことに年配者だけでなく、若い人たちにも人気がありました。レトロでありながら今風なものとして評価を受けたようです。転勤で藤枝に来たので初めは寂しい思いもしましたが、いまはいろいろなマルシェへの出店を通して、仲間や知り合いも増えて楽しく過ごしています。

これからエフドアを利用する人に

何から何までお世話になっています（笑）。話がズレていてもきちんと対応してくれて、とても頼りにしています。悩んでいる時は、解決策がどこにあるか見えない状態だと思いますが、実は解決策はあちこちにあるということを気づかせてくれる場所です。